

きずなの会派視察報告(鹿沼市)

【調査内容】

平成 30 年 11 月 13 日(火) 14:00~16:30

視察先：鹿沼市 まちの駅 新・鹿沼宿

視察事項：まちの駅を中心としたまちなか活性化事業について

- ・歴史的建物を利用した事業の具体例
- ・地域住民と事業の関わり合いは
- ・他県からの来客状況と経済効果は

14:00 より まちの駅 新・鹿沼宿 にて、

鹿沼市議会議長 大島久幸 氏

まちの駅 新・鹿沼宿 駅長 峰崎茂房 氏

鹿沼市議会事務局 係長 鳩山勝利 氏 挨拶があった。

その後、まちの駅 新・鹿沼宿 及び屋台のまち中央公園 両施設の説明があった。

整備方針として大型ショッピングセンター跡地を利用して、

・かぬまブランドをはじめとする「かぬまのいいもの」の情報発信機能の充実や観光ゾーンへの中継点機能の強化

・人や食の地域資源を活かした多様な交流により集客機能を拡充

・おもてなしによるまちの駅機能を強化

中心市街地の活性化を目的に新たな観光交流拠点を整備する事としている。

・市民や観光客などが集い楽しめる賑わい広場

・交通・観光の結節点として、また、市民回遊ネットワークの拠点となる駐車場等も合わせて整備するもの。

平成 23 年 4 月 29 年 まちの駅 新・鹿沼宿 オープン

屋台のまち中央公園に移動し説明を受けた。

屋台のまち中央公園は、中心市街地の重要な伝統文化の拠点として整備されており、彫刻屋台 3 台を常設展示し鹿沼の秋祭りや屋台の歴史を紹介する「屋台展示館」、芭蕉句碑の庭園、お土産を紹介販売する「観光物産館」からなっているとの事。

【考 察】

まちの駅と呼ばれる店舗が鹿沼市内に 102 店舗あり、トイレと休憩所の提供及び観光案内をしているとの事。その 102 店舗を束ねる中心施設としての新・鹿沼宿との事。新・鹿沼宿と屋台のまち中央公園は観光客で繁盛しているようだが、鹿沼市内の 102 店舗に対する観光客増加に対する影響や働きかけについては今一つのように感じた。

本市においても、軽トラ市が盛んに行われており、中心市街地の活性化の為、活用したら良いのではと考えている。

きずなの会会派視察報告(宇都宮市)

【調査内容】

平成 30 年 11 月 14 日(水) 13:00~17:00

11 月 15 日(木) 9:00~12:00

視察先：宇都宮市 宇都宮市民文化会館

第 13 回全国市議会議長会研究ファーストに参加

11 月 14 日(水)

13 時より開会式

13 時 20 分より基調講演が中央大学法学部教授の宮本太郎先生から「地域共生社会をどうつくるか 2040 年を超える自治体のかたち」と題して行われた。

14 時 40 分より山梨学院大学法学部教授の江藤俊昭先生がコーディネーターとなって「議会と住民の関係について」パネルディスカッションが開催された。

パネリスト 今井照 公益財団法人地方自治総合研究所主任研究員
本田節 旬ひまわり亭代表取締役
神田誠司 朝日新聞大阪本社地域報道部記者
小林紀夫 宇都宮市議会議長

パネルディスカッションの内容は以下の通り。

- ・新たな地域課題の確認とそれに対して住民議会はどう対応しているのかという評価とともに提言
- ・課題の明確化や解決手段を構想するために住民と議会の関係の現状と課題

11 月 15 日(木)

9 時より山梨学院大学の江藤俊昭先生がコーディネーターとなって「議会と住民の関係について」課題討議が開催された。

事例報告者 桑田鉄男 久慈市議会副議長
伊藤健太郎 新潟市議会議員
ビアンキアンソニー 犬山市議会議長
道法知江 竹原市議会議長

課題討議の内容は以下の通り。

- ・議会改革の金字塔としての議会基本条例
- ・議会は住民自治の根幹
- ・住民福祉の向上につなげる議会からの政策サイクル

【考 察】

中央大学法学部教授の宮本太郎先生による基調講演の中で、2040年問題があり、考えさせられた。国は本気で今後20年かけて超高齢化・低所得者対策を考え、地方も積極的な意見を出さないと、地方は立ち行かなくなるのではないかと心配になった。

二日間における山梨学院大学法学部教授の江藤俊昭先生がコーディネーターとなって「議会と住民の関係について」との議題でのパネルディスカッションと課題討議であったが、同じ議題でありながらパネリストや事例報告者が違っていると、会の内容や結論がこんなにも違ってくるのかと驚いた。